



KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2024 年 6 月 14 日 Vol.14



写真 1（左）、2（右）：卒業式の会場の様子

2023 年 10 月 27 日、この日は Gr11 の卒業式がありました。ただ、ここで疑問が一つ。ナミビアは 12 月が学校の終業であるにも関わらず、なぜ 1 か月と少し早いこの時期に卒業式をしているのか？ということです。この答えは、Gr11 の卒業試験（NSSCO）が 11 月の中頃から始まるからです。また詳しく後述しますが、この試験は同時に Gr12 への進学を目指す生徒にとっての入学試験にもなり、そのため別会場で厳粛に執り行われます。この国家試験が控えている関係で 11 月は慌ただしく、また試験が終わると生徒は登校して来ないため 12 月も実施できず、この時期に落ち着いたそうです。



写真 3：在校生による入場の花道

また、右の写真 4 のように先生方も式典のためにスーツやガウン、民族衣装を召されます。特に海外の卒業式でよく見かける黒いガウンと角帽は卒業式だけの特別感があり、小さい頃からずっと着てみたいと憧れがあります(*ノwノ)。

上の写真 1 と 2 は会場の様子です。Gr11 の生徒にとっては試験を除くと最後の学校行事となるため、綺麗に会場を装飾します。左の写真 3 は卒業生入場時の在校生による花道です。彼らのアカペラの歌と共に卒業生を迎えます。Vol.5 でも記載しましたが、ナミビアの人たちの歌唱力は凄まじいものがあり、その歌を聴けることは毎度の楽しみです。



写真 4：先生方

※写真はすべて本人に掲載許可をいただいております。



写真5：式典の様子



写真6：成績優秀者の表彰

上の写真5は式典の様子です。生徒も数人がガウンや角帽を身に付けています。式次第は日本と同じように先生方からのお言葉があったり、国歌や AU（アフリカ連合）連合歌、その他歌の斉唱があったり、また成績優秀者の表彰（写真6）があったりしました。ただ、日本と異なることはダンスタイム？のようなものがあったことです。音楽が流れ、最初は BGM かと思っていたら卒業生が次第に踊り始め、日本の厳粛な雰囲気と逆行するようにどんどん盛り上がっていききました。するとやはり先生方も踊り始めます。どこかアメリカのプロムを彷彿とさせるかのような雰囲気でした。Vol.12 でも紹介しましたが、こちらの人はとにかく音楽さえあれば踊り出します。以前、スピーカーから掃除機の音を流しただけで踊り始めた時は、さすがに笑い転げました 😊。今度は日本の民謡でも踊るかどうか試しに流してみようかなと思います。



写真7：集合写真

式が終わった後は写真撮影会です。もしこの国に永住するならダンス講師とカメラマンで生計を立てようかなと考えるほど、写真はダンス同様こちらで人気があります。そのため撮影依頼はひっきりなしでした。「記念写真撮るよ」と一言声をかけると約5秒で写真7の状態になります。いつもは個性が強いのに、なぜか写真の時だけ団結するのは不思議です。教師の立場だとこれがずっと続いてくれればいいのにと何度思ったことでしょうか。ただ、その

個性の強さが彼らの良さでもある訳ですが。。教育とは一筋縄ではいかず難しいものです。

こちらの卒業式に初めて参加して、式の雰囲気は多少異なるものの、日本の学校で自分が初めて担任をした生徒たちを送り出した時のことを思い出しました。当時は冗談抜きで今の 1000 倍くらい働いていました（2024 年現在は幸いにも？そこに迫る勢いを見せています）。酸いも甘いも、ただただ教員をやっただけではできない経験もたくさん積みまけてもらいました。そんな山や谷を乗り越えた先で迎えた卒業式当日、それらを走馬灯のように思い出していたトドメに、中学時代は子どもが大変だったというところある保護者から

「先生が3年間担任でよかった。本当にありがとうございました。」と長文のお手紙と共に
ご挨拶いただいたときは、成人してから人前では二度ほどしか泣いたことのない自分が、
人目も憚らず泣いてしまいました（※後日談ですが、クラスの生徒は式当日に担任が泣く
か泣かないかの賭けをしていたそうで、倍率を聞くと10対0で“泣く”という賭けにな
っていない賭けだったようです。逆張りしている子が一人もいないという内訳を事前を知
っていたら、意地でも泣かないと踏ん張っていたと思いますが、3年間一緒にいた生徒の
方がよく性格を分かっていましたね）。昨今は教員のなり手が不足し、マイナス面が大きく
目立つようになってしまった職種ですが、他では経験できない感動もあります。今回の卒
業生とはほぼ接点がありませんでしたが、式中に当時の自分が投影されて少しだけウルッ
としました。彼らには、最後のイベントの卒業試験も頑張っただけいいですね。

セカンダリーフェーズの違いと卒業後の生徒の進路

Vol.5 でナミビアの教育制度について簡単に紹介させていただきました。そこでも記載しま
したが、今回は卒業式という内容にもちなんで、①セカンダリーフェーズの違いと②卒業
後の生徒の進路について2回に渡って紹介させていただきます。

《①セカンダリーフェーズの違い》

セカンダリースクールはGr8・9のジュニアフェーズとGr10～12のシニアフェーズと
に分かれると記載しました（Vol.5 参照）。ただ、本校はGr11まで在籍しているにも関わ
らず、校名が“Karibib Junior Secondary School”なことがどうしても気になっていま
した。調べたところ、これは慣例によるものだと分かりました。正式にはここに記載して
いる呼称になるのですが、セカンダリースクールは大きく分けてウチのようなGr11まで
の学校とGr12の課程まである学校と2種類存在します。そのため、前者をジュニア、後
者をシニアと慣例的に呼んでいるようです。

《②卒業後の生徒の進路》

Gr11の生徒は全員上述した卒業試験を受けますが、その後の進路はこの試験の成績に大
きく左右されます。例えば将来、医者や獣医師、弁護士、教員等一部の職種に就くため
には、まずはGr12の課程を卒業する必要があります。しかし本校には存在しないため、こ
れらの職に従事したい生徒は基本的にGr12の課程のある学校に進学します。ただ、誰で
も進学できるわけではありません。この試験の各科目のスコアを100点満点に圧縮し、

スコア	80～	70～79	60～69	50～59	40～49	30～39	20～29	～19
評価	A	B	C	D	E	F	G	U

上表と照合して、A～Uの評価を付けます（Gr11のみFとGも存在する。Uは当該科目
の単位不認定）。このうち、最低3科目でC以上の評価が付けば、Gr12への進学資格を
得ます。例えば6科目受験した二人の生徒がいたとして、それぞれの評価が

○ A, C, C, U, U, U × B, C, D, D, D, E

だった場合、総合成績を見ると右の子の方が高そうですが、残念ながら進学資格は得られ
ません。Gr12以降の進路やその他の進路に関しては、次号 Vol.15 で再度紹介します。

次回：夜の7時から始まる学校行事??日をまたいでも続く活動の様子を紹介します！